

道



1 1月特別号

- 地域に、友だちに進んであいさつ 20人
- 人をほめることば、人に感謝することばを20回

11月7日(月)にPTAの皆さんのご協力を得て、また絵本作家をお呼びしてお話をさせていただく機会をいただきました。本年度は旧新南陽出身で絵本編集者、作家の松田素子先生のお話を伺いました。

大変よいお話で、子どもたちも大きな感銘を受けておりました。話の内容を短くまとめてみました。何かの参考にしていただければと思います。



絵本の扉の向こう側

編集者の仕事

ただ、物語に絵をつけるのが絵本ではない。作家も、絵描きも、編集者も表面には表れにくい、主人公のもっているキャラクター、他の登場人物の思いも考えて、しっかり本を読み込む。そして自分はどうすることがよいのかを出しあいながら、修正を何度も繰り返して協力してよいものをつくりあげる。これが編集者の仕事だと、いくつもの校正を繰り返した原稿を見せながらお話をされた。

また、常に読者の目線はどこにあるのか、読者を参加させたり、感動させるためにどのような工夫をするかを常に考える仕事で、多用な見方で、物語を考えることが編集者として必要な力であることを述べられた。

絵本のできるまでの苦労が少しでも分かり、子どもたちの絵本の見方が少し変わるかも知れません。

先生からのメッセージ

1 あきらめない

編集者として作家を見ていると、作家が有名になるのは作家の能力が高いからではないと思うようになった。とにかくあきらめないこと。「だめだ」と止めてしまうのではなく、「何とかなる」という柔らかい気持ちと人の話も素直に聞き入れて、続けてやる人が名を成すものである。

2 見方を一つにしない

「これしかない」と思えば、解決されないし、つらい。他にやり方はないのか、本当にこれでよいのか、見方や立場を変えるといろいろな解決方法を見つけることもできるだろう。例えば、一つの花であっても、茎から見る、真横から見る、真上から見る、光を当ててみる、暗やみで眺める、その時々で思いや考えは変わる。たおやかにものを見てほしい。

3 ゆっくりやろう

ある花が咲くまで、2時間半公園で見続けていたことがある。夕日が沈むまで2時間見続けたことがある。ほんの少しずつ変わる色や姿は、早送り画面では絶対に見ることができない神秘的なものだそうだ。今頃映像で疑似体験したり、「早送り」にして見たつもりになっている。

もっとゆっくり、時間をかけて、じっくり見ること、やることを大切にしたらどうだろうか。ファーストフードは便利だが、スローフードは味わい深く、忘れられない。

4 ことばを大切に

あるものを見て、「かわいい」「かわいい」と仲間と言い合ってたつもりになっている。ものの何を見てどのように思うのかを語らない傾向が強くなっている。だれが、何をどう見て、どのように考えているのかをていねいに語ることに、聞くことがやさしさにつながる。主語をもってしっかり語る人になってほしい。

5 「まどみちお」さんから学ぶ

「ぞうさん」の作者、まどみちおさんは今年102歳。編集者として、まどさんと接した体験から分かった、まどさんの口癖

「知らなかったな」「そうだったんだ」

「びっくりしたな」「ありがたいな」

百歳を超えても、いつもおもしろがってものを見る遊び心、少しでも、知ってやろうとする探求心。わずかなことでも感動できる実直な心。これがあれば、毎日を新鮮に楽しく暮らすことができるはず。そして、感謝の気持ちがあれば、人といさかいを起こすこともない。

さらに「まどさんにはいつも笑顔のくせがあるのです。」と講演のあとに話されました。笑顔は相手の心を開く、最高の武器。

このような心で子どもたちに接していきたいものです。

三世代交流会を終えて

本年度は、地域の方々をリーダーとして、指導者の割り振り、事前準備も地域の方々にやっていただきました。お陰様で大変充実した三世代交流会になりました。

こうしたらいいよ



できたよ！見て



作品の一部

削れるかな？



むつかしいな！



えーい！！

子どもたちの声

「やった、できた！」 はじめてけん玉ができた子
「むつかしい」「手がだった。でも楽しかった」 鉛筆削りやった子
「母さんできたよ！」 こま回しができて笑顔で報告する子
「うまいじゃろ」 自慢して折り紙を見せる子
「おばちゃんとやっておもしろかった」 目を輝かせたカルタの子
「もうおわりなん。じかんがたらん」と不満げな子

これからも、地域にしっかり根を下ろした活動を学校として続けていきたいと思ひます。そして、地域にも発信できるものも作りあげていきたいとも考えています。地域の皆様よろしくお願ひいたします。



大盛況！友愛バザー

心配された天気でしたが、好天の中で無事にバザーを終了することができたことにまず感謝したいと思ひます。また皆様方のご協力で、大盛況の中でバザーを終了することができました。

このバザーのために、7月からこつこつと準備を進めてこられた役員の皆様、実行委員の方々。そして当日の多数のボランティアの方々。それぞれの息のあった連係プレーで充実したものになりました。改めてお礼申し上げたいと思ひます。

これから、持久走大会、親子廃品回収等もありますが、一層の支援ご協力をよろしくお願ひいたします。



みなさん！ありがとうございました